

館林市立第三中学校
学校だより

全校一心



～一人一人の持ち味が光る活力ある第三中学校～

PTA講演会

ロンドンオリンピックミドル級金メダリスト

講師 プロボクサー 村田諒太 様

— Self determination (自分自身での決断) —

第三中学校様へ

2022. 11. 26

11月26日(土)本校体育館で、PTA主催の講演会に遠方から、私たちのために金メダリストの村田諒太選手が来てくれました。

講演前に村田選手は、「人生の舞台は人それぞれ違っていい。その舞台をどんなものにするか。人から与えられたものでなく、自分の決断で作りに上げる。ことと価値があると思う」と話してくれ、「中学生は目の前の進路選択をする時期だが、希望校に入ったことで満足するのではなく、入ってから何をするかを大切にしてほしい。人生は日々選択と決断の連続。それが自分の舞台、自分の人生をつくっていくと思っているのでそのことを伝えられれば」とおっしゃっていました。(村田選手の言葉)

「自己決定によって、人生ははっきり変わる」

「やらなきゃよかったという決断はない」

「人はだませても、自分自身はだませない」

「何ができるかを考えチャレンジ」



～人権週間に向けて～

12月4日から10日までの1週間は、「人権週間」です。

「人権」とは何でしょう？ よく言われるのは、一人一人が生まれた時から持っている「人間が人間らしく生きる権利」ということです。

人権週間に当たり、私の心に落ちる文章を以下に紹介します。

「あなたにとって他人でも、みんな誰かの大事な人」

一人一人が家族にとってかけがえのない宝物であり、「誰か」として何物にも代え難い大事な人なのです。人をいじめたり、人に意地悪をしたりといったことを聞くと、この「誰か」のことを思い出して欲しいと願わずにはいられません。

いじめられて、悲しくつらい思いをしている人は勿論のこと、その人を宝物と思っている「誰か」も、同じように悲しくつらい思いをしているのです。家族かもしれません。友達かもしれません。孫を心配するおばあちゃんおじいちゃんかもしれません。逆に、いじめてしまった人、意地悪をしてしまった人も、実はその人だって「誰か」の大事な人のはずです。いじめや意地悪をしてしまった人の「誰か」だって、きっと心を痛めているはずだと思うのです。

思いやりというのは、想像力でもあると思います。自分の目の前にいる人の気持ちを想像することは勿論、あなたを大事な人と思ってくれる、直接目の前にいない「誰か」の気持ちを想像することで思いやりの心が芽生えてくるのではないのでしょうか。

人の痛みを痛みとして感じられない、想像力を欠いた事件が現実には世の中には起きています。そんな中でもみなさんにはぜひ、自分の身に置き換えて、自分がされて嫌なこと、自分が言われて悲しいことを考えて想像できる人であってほしいと思います。あなたを大事な人と思ってくれる「誰か」を笑顔にできるように。

この人権週間を一つのきっかけに、自分たちでできる「人権尊重」について考えていきましょう。

12月4日～10日は「人権週間」です。

- ・女性の人権を守ろう
- ・子どもの人権を守ろう
- ・高齢者の人権を守ろう
- ・障害者の人権を守ろう
- ・障害を理由とする偏見や差別をなくそう
- ・同和問題に関する偏見や差別をなくそう
- ・アイヌの人々に対する理解を深めよう
- ・外国人の人権を尊重しよう
- ・HIV感染者やHIV陽性者等に対する偏見や差別をなくそう
- ・刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう
- ・犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
- ・インターネットを悪用した人権侵害をなくそう
- ・北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
- ・ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
- ・性的指向を理由とする偏見や差別をなくそう
- ・性同一性障害を理由とする偏見や差別をなくそう
- ・人身取引をなくそう
- ・東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう